

「資源」への財政社会学からのアプローチ

1. 財政学からのアプローチ

- ◆ 「危機」における二つの経済学のパラダイム
- ◆ 三位一体から経済・社会・政治の三角形となる
- ◆ 「空想から科学へ」を根本的に見直す財政社会学アプローチ
- ◆ 社会システム＝共同体を状況認識の視座に取り込む
- ◆ 共同体の地域的差異
 - ◇ 大気系・水系・土壌系という共同体の自然的基礎とのホメオスタシス (homeostasis)
 - ◇ 生命系の人間世界のホメオスタシス

2. 「資源へのアプローチ」

- ◆ 「資源 (resources)」＝語源的には「生命」を意味するラテン語の *surgere* に由来し、大地から絶え間なく湧き出ずる泉に象徴される「再生」
- ◆ これに自然と人間との関係の意味が加わる。自然の恵みが絶えることのないようにする自然への配慮としての「相互依存」

3. 市場社会における「資源」

- ◆人間社会の自然的基礎からの「離床」＝囲い込み運動
- ◆人間の知識と技術を適用する対象としての自然資源
- ◆「再生」と「相互依存」の喪失
- ◆コモンズとその上に築かれていたコモンズの崩壊

4. 工業社会の行き詰まりと新自由主義の大失敗

- ◆「資源」を支配する対象とした工業と市場原理にもとづく力学的世界像の行き詰まり
- ◆死の世界像と「強盗文化」の行き詰まり
- ◆「強盗文化」＝あらゆるものを、欲望のおもむくままに自分のものにしてしまう傾向が支配的な文化
- ◆自然環境と人的環境の破壊
- ◆「宇宙のオアシス」としての「水色の惑星」とともにホモサピエンスの旅の終りの「危機」
- ◆ヨーロッパの空間政策の失敗からの教訓

5. 「再生」と「相互依存」という本来の「資源」を取り戻す

- ◆「再生」と「相互依存」を再創造するための知識と協力
- ◆コミュニティに伝わる「暗黙知」を最基底に位置づける
- ◆人間の生物的機能とともに人間の人間的能力＝神経系統の能力
- ◆農業だけではなく、工業を含むあらゆる産業で、資源の「再生」と「相互依存」を再創造する
- ◆「量」の経済から「質」の経済へ
- ◆自然資源、人的資源、社会資源の三つに分類される資源のカテゴリー

社会を構成する三つのサブ・システム

